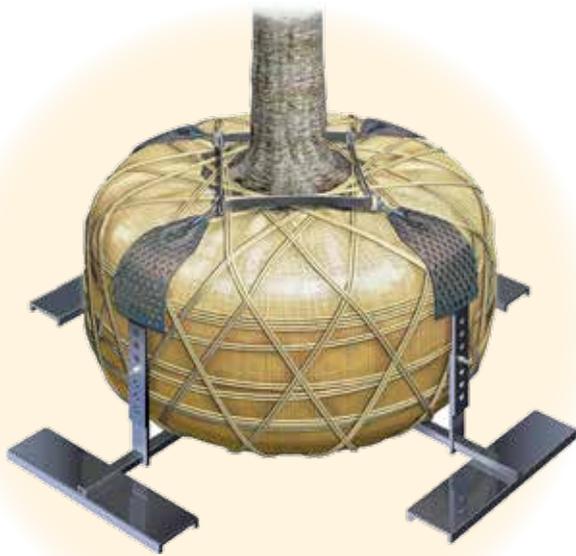


ジュポールベース (JB)

外構樹木はもとより、屋上でも使用できる地下支柱です。
大きく広がったベースの上に乗る土壌の重量と粘着力で支持します。
特に軽量土壌においては、土壌性状によって支持力に大きな違いがでますので、使用する軽量土壌には注意が必要です。

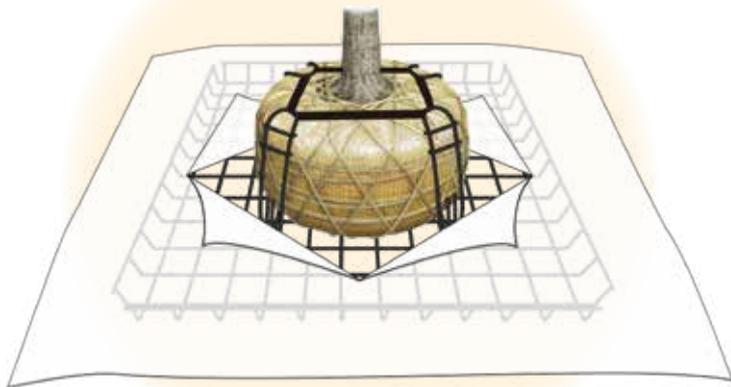
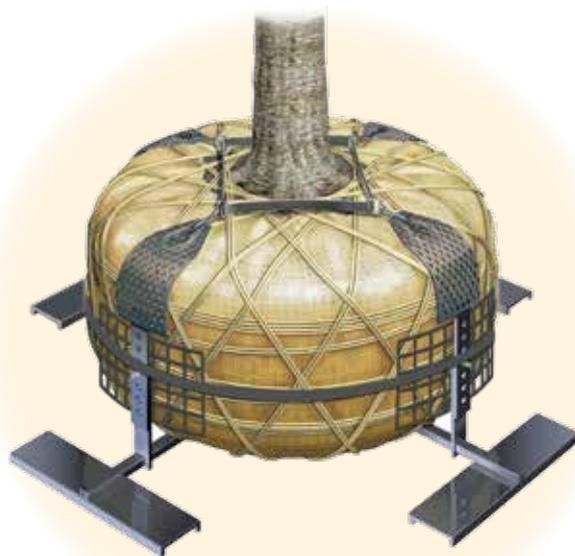


◀ JB

狭小地や定形の”植栽ます”にも対応する、スライド式ベース板を採用した埋設式地下支柱です。根鉢の大小にかかわらず簡単にアジャストが可能で、不定形な根鉢にもフィットし、樹木をしっかりと支えます。

▶ JB (根鉢押えメッシュ付)

風速 36.5 m/s 対応 (建築基準 100 年再現 (基準風速) × 1.07 倍) のスライド式ベース板を採用した埋設式地下支柱です。側面に根鉢側面押さえメッシュと根鉢側面押さえベルトを設置し、強風時に根鉢が回転しないよう固定します。

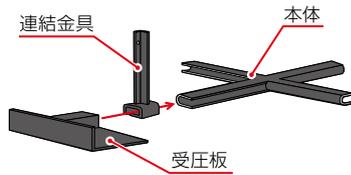


◀ JB-M

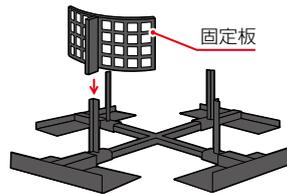
メッシュに根鉢を固定する方式の埋設式地下支柱です。部材が少なく、軽いため、施工や運搬が楽に行えます。また、メッシュを並べて結合が可能のため、生垣や列植 (連続した植栽) にも適しています。

JB-0.1の施工手順

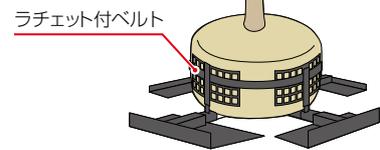
- 1 本体に連結金具を通し、受圧板を差込む。



- 2 根鉢の高さに合わせ、連結金具に固定板を差込む。



- 3 樹木を自立させる。連結金具をスライドさせ根鉢にフィットさせる。周囲をラチェット付ベルトで締め、施工完了。



増し締めをお願い ※増し締め用のスペースを確保してください ※目安時期 ページ下部参照
根鉢側面を締め込んだラチェット付ベルトのラチェットの位置を GL レベルに記してください。増し締めの際はその部分を握り、ラチェットがそれ以上締まらなくなるまで締めてください。

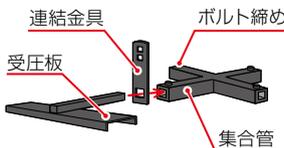
JB-2.3.4の施工手順

※イラストはJB-2の場合。
※JB-4の固定板形状及び取付方法は、JB-5.6.7と同様。

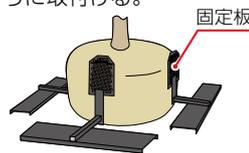
施工動画



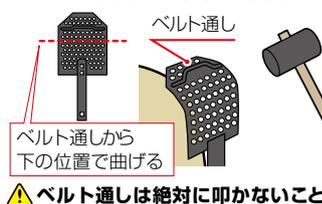
- 1 受圧板に連結金具を差込み、集合管に挿入する。受圧板はボルト締めにて固定する。



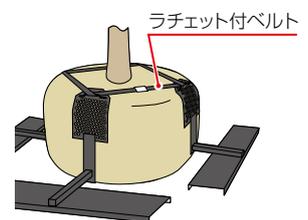
- 2 1の上に樹木を自立させる。根鉢の高さに合わせて固定板を調整する。固定板の半分が根鉢の肩より上部にくるように取付ける。



- 3 根鉢の肩にフィットさせ、ハンマーで固定板の面を根鉢との隙間がなくなるまで叩いて根鉢になじませる。



- 4 固定板にラチェット付ベルトを通し、根鉢を締め、施工完了。



使用する工具

レンチ(ソケットサイズ 17 mm)、プラスチックハンマー

増し締めをお願い

※増し締め用のスペースを確保してください ※目安時期 ページ下部参照
根鉢上にラチェット付ベルトがあるため、その部分の土もしくは植物を移動し、ラチェットがそれ以上締まらなくなるまで、増し締めしてください。本施工の時にラチェットの巻きしろを少なくするため、余分なベルトは切ってから締めてください。

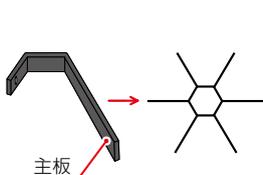
JB-5.6.7の施工手順

※イラストはJB-6の場合。

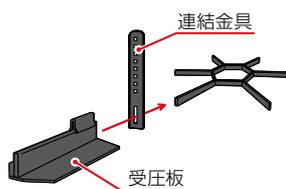
施工動画



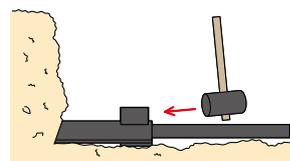
- 1 主板を組立てる。



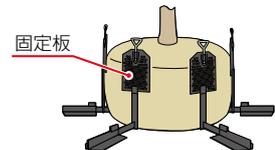
- 2 主板に連結金具と受圧板を通す。



- 3 受圧板を側壁へ打込む。



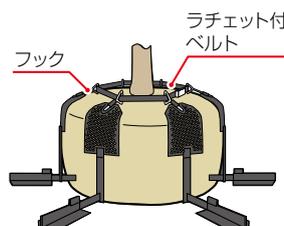
- 4 3の上に樹木を自立させる。根鉢の高さに合わせて固定板を調整する。固定板の半分(フックボルト)が根鉢の肩より上部にくるように取付ける。



- 5 根鉢の肩にフィットさせ、ハンマーで固定板の面を根鉢との隙間がなくなるまで叩いて根鉢になじませる。



- 6 ラチェット付ベルトをフックに通し、ベルトを締める。

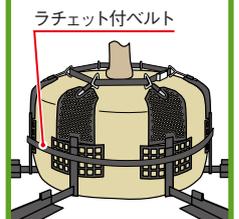


- 7 ベルトが動かなくなるまで、フックのナットをラチェットレンチで徐々に締め込み、施工完了。



根鉢押えメッシュ付

は、メッシュ上にラチェット付ベルトを巻いて締める。



使用する工具

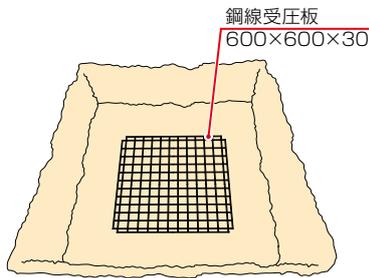
レンチ(ソケットサイズ 17 mm、19 mm)、プラスチックハンマー、大ハンマー

増し締めをお願い

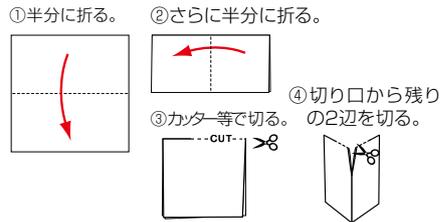
※増し締め用のスペースを確保してください ※目安時期 ページ下部参照
根鉢上に7のような増し締め用のナットがついています。このナットを出し、ラチェットレンチで増し締めしてください。このナットの巻きしろが無くなったときは、6 ラチェット付ベルトを外しナットの巻きしろを戻してから再度ベルトを締めて固定し、それ以上締まらなくなるまで増し締めしてください。

JB-Mの施工手順

1 1m×1m×根鉢の高さの穴を掘削し、鋼線受圧板を穴底に設置する。

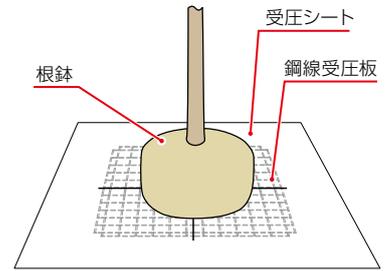


2 1m×1mの受圧シートを折り畳み、中心に十字の切れ込みを入れる。

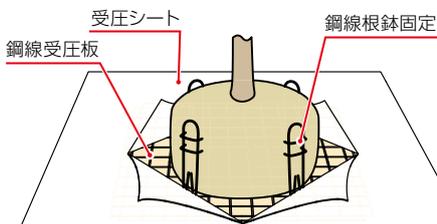


⚠ 切れ込みを入れる際は、端から余白を約20cm残してください。

3 鋼線受圧板の上に受圧シートを敷設し、その上に樹木を設置し、樹木を自立させる。

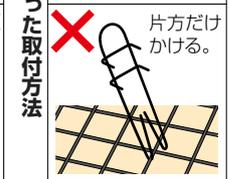
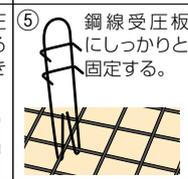
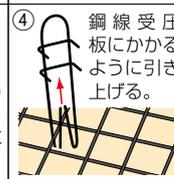
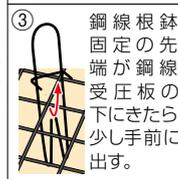
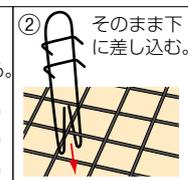
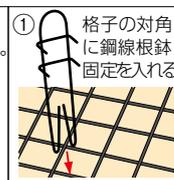


4 受圧シートをめくり、鋼線根鉢固定を鋼線受圧板に設置する。



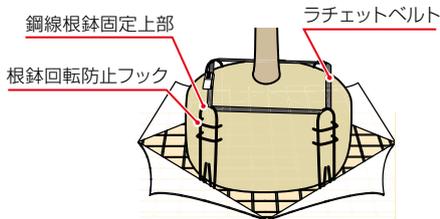
⚠ 鋼線根鉢固定の取付け間隔は、なるべく均等にしてください。

鋼線根鉢固定の正しい取付方法

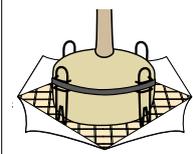


鋼線根鉢固定の誤った取付方法

5 鋼線根鉢固定上部にラチェットベルトを通し締めこむ。

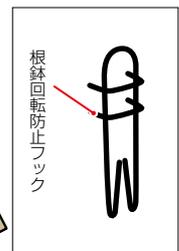
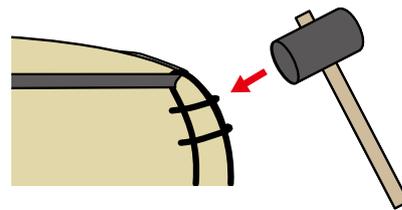


⚠ 根鉢径がφ200以下の場合は根鉢側面にラチェットベルトを締めこんでください。

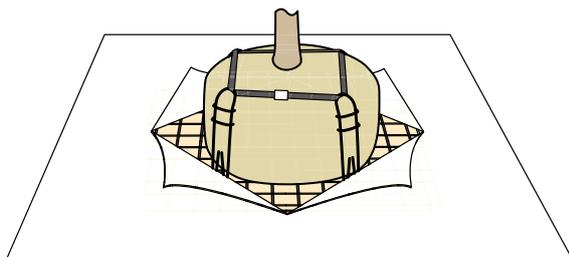


⚠ ラチェットベルトを通す際は必ず鋼線根鉢固定上部に通してください。根鉢回転防止フックにはかけないでください。

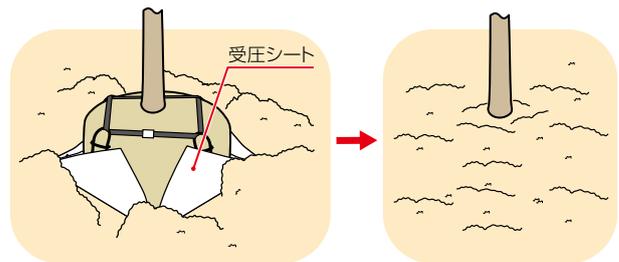
6 ラチェットベルトを締めこむ際に根鉢回転防止フックをプラスチックハンマーで叩き、根鉢に食い込ませる。



7 根鉢回転防止フックが根鉢に食い込むまでラチェットベルトを締める。



8 受圧シートがめくりあがらないように土を埋め戻し、施工完了。



使用する工具

カッター
プラスチックハンマー

増し締めをお願い ※増し締め用のスペースを確保してください ※目安時期 ページ下部参照

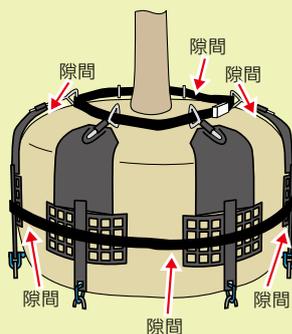
根鉢上にラチェット付ベルトがあるため、その部分の土もしくは植物を移動し、ラチェットがそれ以上締まらなくなるまで、増し締めしてください。本施工の時にラチェットの巻きしろを少なくするため、余分なベルトは切ってから締めてください。

規格

規格	目安樹高 (m)	許容根鉢径 (m)	根鉢高 (m)	支柱許容寸法 (m)	参考歩掛(人工)		JB (根鉢押えメッシュ付) 付属品		
					JB	JB 根鉢押え	メッシュ 300×200	メッシュ 400×300	ベルト 2t用×4m
JB-M	～2.0	0.20～0.50	0.20～0.35	□0.6	0.18	0.18	—	—	—
JB-0	～2.0	0.20～0.45	0.20～0.35	□0.6	0.18	0.18	—	—	—
JB-1	～3.0	0.27～0.47	0.20～0.35	□0.75	0.20	0.20	—	—	—
JB-2	～4.0	0.48～0.80	0.30～0.45	□0.8～1.12	0.25	0.35	4	—	1
JB-3	～5.5	0.68～1.20	0.40～0.65	□1.0～1.52	0.30	0.40	4	—	1
JB-4	～7.0	0.73～1.30	0.50～0.80	□1.24～1.71	0.35	0.50	—	4	2
JB-5	～9.0	0.80～1.50	0.60～1.00	Φ1.8～2.4	0.50	0.70	—	5	2
JB-6	～10.0	1.04～2.10	0.75～1.30	Φ2.4～3.0	0.65	0.90	—	6	2
JB-7	～12.0	1.30～2.60	0.85～1.50	Φ2.9～3.5	0.80	1.10	—	8	2

※参考歩掛は造園工です。

メンテナンスの重要性



近年では台風の増加や規模が大きくなり樹木が揺らされる状況が多くなっています。樹木を揺らされることで地下支柱と根鉢に隙間ができやすくなります。弊社では樹木1本ごとに強度計算をしていますが、台風などによる外的影響には想像の限界があります。隙間が出来た状態を放置しておくことは地下支柱の性能が十分に発揮されず、その**隙間が大きければ大きいほど倒木の可能性は大きくなります**。

倒木による被害を無くすためにも定期的なメンテナンスを行っていく必要があります。しかし、樹木と地下支柱がしっかりと固定されているか確認をしようにも根鉢は土の中にあり、確認しづらいことが多いです。

そのため地下支柱のメンテナンスとしては地下支柱と樹木との間にできた隙間を無くすために再度地下支柱を締める作業を行っていきます。

(以下、この作業のことを「増し締め」といいます)

下記のスケジュールで**増し締めをしていただくことが地下支柱の効果を維持していただくことに繋がります**。

メンテナンス(増し締め)の時期と回数

弊社では増し締めの回数を以下の目安で推奨しています。しかしながら**嵐や台風などの影響により隙間が生じやすくなるため、その回数は状況に応じて行う**必要があります。

施工者が行うメンテナンス(増し締め)



水極め後

水極め終了後に水が完全に引いてから行ってください。(半日～1日経過後、雨天時は翌日)



引渡し前

お引渡し前に増し締めを行ってください。

管理者が行うメンテナンス(増し締め)



台風シーズン前 (7月頃)

台風が来る前の7月頃と台風が過ぎた9月末頃に増し締めを行ってください。台風による樹木の揺れによって地下支柱との間に隙間が生じやすくなっているため特にご注意ください必要があります。



台風シーズン後 (9月末頃)